



キューバ共産党第8回大会

2021年4月28日

キューバにおける共産党大会の意義

- 党大会は、キューバで最も重要な政治的出来事の一つで、そこで国の政治・社会・経済の基本路線に大きく影響する決定がなされる。
- すべての党大会は、歴史的継続性を保ち、方向転換が行われたことはない。
- しかし、第8回大会は、2011年から始まった「**経済・社会モデルの刷新**」として知られる政治・経済プロセスの一環として捉えることができる。その意味で、同様に捉えることのできる第6回大会（2011年）、第7回大会（2016年）と直接的な繋がりをもつ。



経済・社会モデルの刷新

- 経済計画を修正し、行政の直接的メカニズムに代わって、マクロ経済政策による間接的メカニズムを優先すること。そのためには、全国民による社会主義的所有（国営企業）を主要な生産手段の基本的所有形態として保ちながら、市場メカニズムを拡大させ、民間活動の役割を拡大させる。
- 2011年の第6回大会は、2か月間の大衆討議の後、「党と革命の経済・社会政策基本路線」提案を承認した。これはモデルの刷新綱領的文書。
 - この大衆討議には8百万人を超える人々が参加し、3百万件を超える発言があった。市民による提案をもとに、文書の68%が修正され、同党大会で採決された。



経済・社会モデルの刷新

- さらに、基本路線実施のための常設委員会が設置され、今日まで、この過程を指揮する中心的役割を果たしてきた。
- 2016年の第7回党大会は、刷新過程の理論的基盤となる「**キューバの社会主義的発展の経済・社会モデルの概念規定**」が採決された。また、**2030年までの経済・社会発展計画**も採決された。これは中長期の戦略的観点から、キューバ経済の構造的問題を解決しようとするもの。さらに、「**党と革命の経済・社会政策基本路線**」も更新された。



経済・社会モデルの刷新

- 「刷新」における今までで一番重要な進展は2021年1月に始まった「通貨・為替制度の整備」である。
 - 二重通貨と二重為替レート制度の廃止により国民の基本消費を保護していた暗黙の物価補助金のメカニズムをなくす。
 - 補助金の廃止に伴う物価上昇は、労働者と年金受給者の収入増加で相殺される。その結果、国民の消費ニーズは個々の収入により満たされなければいけない。
 - これにより、マーケットシグナルに対応し、より間接的な経済管理メカニズムへの移行を可能にする経済機能を達成するための条件が整う。



第8回キューバ共産党大会

- きわめて厳しい経済環境の中での開催が特徴。
 - 過去4年間、米トランプ政権のもとで、キューバへのかつてない封鎖強化が行われ、242件の措置がとられた。それらは今だに継続中。
 - 新型コロナパンデミックにより、キューバの観光収入はほぼゼロに。（観光は外貨の主要な収入源のひとつ）。
 - コロナ対策のために、国家予算の異常な支出が生まれた。
 - それに加え、キューバ輸出の国際的需要の減少があった。
 - 感染予防対策が国内経済に与えた否定的影響がある。



第8回キューバ共産党大会

01

- 2021年4月16日～19日開催。
 - 1961年4月16日、は米国政府が組織し、資金援助したはプラヤヒロン侵攻直前にフィデル・カストロが社会主義革命宣言を行った日、
 - 4月19日はプラヤヒロンでキューバが勝利した日。

02

- 大会には300人の代議員が参加。58,000の支部に組織された70万人の党員の代表として。
 - 新型コロナパンデミックのため、通常の3分の1以下の人数。

03

- 党員数70万人は、前回の党大会と比べて27,000人増。
 - これは最近の数年間、年間39,000人の新規入党者があった結果です。
 - 新党員の3分の1は、35歳以下。



経済的課題

- 「基本路線」について、2011年からの施行状況が分析された。
 - 第6回党大会以降に承認された244の政策、及び第7回党大会で更新された「党と革命の経済・社会政策基本路線」のうち、30%が既に施行され、40%が施行中、残り30%が提案・承認段階にある。
- 分析の結果「**キューバ社会主義的发展モデルの概念規定**」の更新、及び「**党と革命の経済・社会政策基本路線2021-2026**」がそれぞれ承認された。



経済的課題

- この二つの綱領的文章からは今後のキューバの経済政策の路線を読み取ることができます。それらに含まれる主要な点は次の通りです：
 - 様々な形態の所有と経営を認め、多様化させる。
 - 社会主義的国営企業を経済の主体として強化する。
 - 国家は全経済勢力の監督、調整、規制的な役割を果たすが、同時に諸権限の地方分散化を進める。
 - 市場を認め、規制し、その適切な機能を達成する。その目的は、中央指令的行政措置がマクロ経済的政策と連動し、様々な経済的勢力が社会全体の利益に沿う形で意思決定するようにする。



経済的課題

- その一環として、生産者または販売者が所有や経営の形態にかかわらず、投機など悪しき商習慣を防ぐ必要がある。
- 経済の構造的諸問題の解決に向けて前進する。特に農牧産品を中心に食料の生産と販売を促進する。エネルギー供給構造に占める再生可能エネルギーの比率を高める。輸出及び効果的な輸入代替の拡大、観光業の回復と促進、外国からの直接投資の推進。
- 必要な調整を加えた上で、「通貨・為替制度の整備」を進める。目指すところは、経済運営における金融手段のさらなる活用を進め、主要なマクロ経済バランスの達成に向けて前進する。



経済的課題

特筆すべき点として、ラウル・カストロは今回の党大会で演説し、多くの債権者が債務再編に前向きであることに感謝の言葉を述べた。そして、経済が回復次第、国際債務の返済を再開する意向を確認した。彼が説明したように、封鎖が強化される中で債務の返済は容易ではない。しかしキューバには、約束を履行するという確固たる決意があり、尽力を重ねている。ささやかな額の支払であっても、大きな犠牲を伴う。





世代交代と継続性

- 党指導部の構成が更新され（政治局、書記局、中央委員会）世代交代が起こりました。
- 無論これは象徴的に重要な変化である。というのは、1959年の革命の勝利を導き、以後キューバを率いた世代が完全に引退して、革命後に生まれた人物が、国家と党の指導者に就任するからである。
- しかし実質的には大きな変化はない。キューバでは近年、政治的要職の人事交代が着々と順序だてて実行されてきた。





世代交代と継続性

- 政府の要職での世代交代は既に行われていた。
 - ディアスカネル氏は2018年、国家評議会議長兼閣僚評議会議長に就任
 - そして2019年、新憲法で創設された大統領職に就任。
- それに伴い、指導者個人の影響は小さくなった。それは、集団指導体制へ移行し、機能を分担し、制度化を進めるという論理に従ったものであった。
- また、党の新指導部は、これまでと同じ原則と考え方を継承すると明らかにしている。





世代交代と継続性

- 刷新プロセスは、革命世代が政治的要職に在った時期に始まり彼らにより推し進められてきた政策でこの10年の間その性質に変化はありません、
- 変革の速度は指導部の意思、考え方によって決まるのではなく主にキューバ国内外の経済状況によるものです。この中で最も影響を及ぼしているのが米国の経済封鎖です。
- なぜなら、キューバは国際貿易への依存度が高いため、経済封鎖によって国の外貨準備にかかる重大な圧力は直接国民の生活レベルに反映されます。
- 革命世代も現指導部もショック療法を取らず、「誰も見捨てない」ということを不変の原則として受け止めている以上、国民の生活レベルに圧力がかかれば経済政策の中に中央指令的行政措置を優先することにつながる。



”

「達成した任務に満足し、祖国の将来に対する自信をもって、キューバ共産党中央委員会第一書記としての私の職務を終える。私にたいする党組織上層機関への留任提案を受け入れないという熟慮の上での信念をもって、党の隊列の中で、私は一人の革命家として、命尽きるまでささやかな貢献をする覚悟で戦い続ける。」

ラウル・カストロ



その他の結果及び留意事項

- 複数の指導者による官僚主義、惰性、変革への抵抗が批判された。汚職を始めとする不正事例に対する管理不足も批判の対象となった。
- 性的指向と性自認に関する偏見の防止対策を強化する必要性が認められた。
- より効果的な人種差別防止の取組みが呼びかけられた。
- これらは重要なメッセージである。その理由は、これらが反キューバ・プロパガンダにおいて頻繁に使用されるテーマであるからです。
- 革命の社会的成果と事実を無視して、人工的にキューバでは阻害されたマイノリティーがいるというイメージを作るため
- 透明性を持って公然と前述のテーマを扱うということは、キューバ共産党が対キューバ中傷キャンペーンに反論するよりもこういう課題においてまだ不十分な点への取組みを優先している表れである。



その他の結果及び留意事項

- 重要な考えとして、共産党の指導的役割が再確認された。しかし同時に、その機能において最も広範な民主主義を促進し、率直で深い意見交換（常に一致を見るものではないが）を維持する必要性も再確認された。労働者及び国民との関係を強め、重要な意思決定における市民参加の拡大を更に進めることが確認された。
- 最終的に党大会報告では、キューバの外交政策における主な立場が繰り返えされた。特に米国との関係が強調された。



”

この意味で特筆すべきは、ラウルの言葉である。“私は言明する…米国と敬意を持った対話を促進し、新しい種類の関係を構築する意志を。その達成のために、キューバに革命と社会主義の原則を放棄させようとすることもなく、キューバが主権と独立に関して譲歩することもなく。理想の擁護、正当な大義に基づく外交政策の執行、諸国民の民族自決権の擁護、そして兄弟諸国への歴史的な支援において、キューバが屈することもなく”。





駐日キューバ大使館
臨時代理大使クラウディオ・モンソン